

は し が き

本報告書は、メディア教育開発センター研修事業における研修シリーズ「大学授業の自己改善法'99」で実施している講座のうち、シンポジウムの講演録です。本シリーズは、高等教育機関の教員自身による授業改善の試みを考える場として、様々な形態で講座を実施してきました。その総括として、授業を受ける学生の様態がどのように変わってきているのか、そして学生の学習を支援するという側面での教員の試みと授業改善の事例を考察したものです。高等教育における学生の変容をどのように捉え、それに対して組織として、教員1個人としてどのように対応してゆけばいいのかを参加者とともに検討しております。その内容を研究報告書の形でまとめ、今後、議論を広げる資料として参照していただけることを願っております。

2001年1月

三尾忠男

メディア教育開発センター・研究開発部

研修シリーズ：大学授業の自己改善法'99 の概要

(教員個々人の実践支援)

「学生による授業評価実践」 随時 定員 30名、受講者 73名、通信研修

(授業改善事例の共有)：SCSを使用して全国規模で情報交換

「自分の授業をどう捉えるか ― 授業評価に関わる諸手法 ―」

第1回 学生による授業評価の実践

第2回 自らの授業を振り返るための授業資料の蓄積法

第3回 学生からのフィードバック情報による授業改善

「医学・看護学における学生参加型授業の工夫」

第1回 学生参加型授業の設計理論と実際

第2回 参加型の知識構築：授業と学生を通して現実を学ぶ

第3回 学生のもてる力をひきだす教育方法の開発

第4回 総括セッション

「授業研究・教授法」

第1回 学生参加型授業を考える

第2回 教師の成長を考える

(授業研究)：授業実践と研究会

授業研究「自分の授業を振り返る」 H12.3.23 定員 50名、参加者 59名

(シンポジウム)

「かわる学生・かわる大学 ～学習支援の実践と課題～」…本報告書。

H12.3.22 定員 200名、参加者 105名、会場：AV&CC システムズスクエア。